



新潟地本で 新たな仲間が加入!



新たな仲間と 共にがんばろう!

支社側は、3校同時に入学式があることを把握していたため、徒列が生じることが想定内であったと明らかにし、モバイルスイ

その上で、直感的に操作や購入ができるようにJR6社協議などを通じて



その上で、オペレーショントの相互理解も必要であり、オペレーションセンターの見学などにより、お互いの平準化、相互理解が必要だとの認識を示し、出面増員によらず方策は考えていくとしました。

●黒字だけで会社はまた出し渋って期待を裏切るのではないかと
●夏は早く決まったがたつたの2・7カ月はおかし
●社員の生活設計というなら利益は社員に

新潟支社の実態に合った 営業体制の確立を求める

2023年度申26号・新潟支社における駅の販売体制に関する申し入れ団体交渉

JR東日本は2021年5月、2025年度までに「みどりの窓口」を140駅程度にまで削減する計画を発表、新潟支社においても急速に窓口の廃止が進められ、新たに「話せる指定席券売機」の導入が行われてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが5類となつて以降、ご利用が急速に回復したことや、窓口廃止後に指定席券売機に徒列が生じていることから、お客さまのご利用状況に合わせた販売体制を構築するよう求めました。

支社側は、将来的に窓口には依らない販売体制を目指すことに変わりはないが、可能な範囲で臨時の窓口発売を行うなど柔軟な対応を行っている」と回答し、引き続き効率的な駅の体制と販売サービスの維持を両立し、サステナブルな販売体制を構築していくとの考えを示しました。お客さまの利用状況と変化に対する認識を質す

「話せる指定席券売機」の繋がりが悪く、5分以内に繋がる件数より10分以上待つ件数の方が多いため、オペレーションセンターの増員を求めました。

支社側は、多売期等を含めたご利用状況等を踏まえて柔軟にオペレーター体制を調整するなど、最大限の対応を行っているとして、引き続き駅とコールセンターが連携して適切な案内を行っていくと回答しました。

●働く社員が減っているのに給料が上がってこないのもおかしいし、やる気も起さない。ボーナスくらいはちゃんと出して欲しい
●お客さまのご利用が増えている。業績は好調なのだから社員に還元してほしい

新潟地本は9月5日、2023年度申26号・新潟支社における駅の販売体制に関する申し入れの団体交渉を行いました。「話せる指定席券売機」の機能やお客さまへの案内などの課題、コロナ禍の影響が薄れてお客さまのご利用が回復したことによる対応・体制の問題点などの課題が生じていることから、新潟支社の実情にあった営業体制を求めて申し入れを行っていたものです。



力に徳憑や登録をお並びいただいた際の待ち時間で悩めるなど新しい取り

2024年度年末手当

基準内の3.8ヶ月分
賃金の

社員の業績は好調!
社員の努力の成果に
見合う年末手当を!

要求満額実現のために
東日本ユニオンに結集しよう!

年末手当
社員の「本音の声」
続々と寄せられる